平成30年度　学校経営計画・学校評価シート

高知県立日高養護学校

《高知県の教育の基本理念》	（1）学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち （2）郷土への愛着と誇りをもち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	《目指すべき姿》	学校像	○　子どもたちが楽しく学べる学校 ○　保護者が安心して子どもを任せられる学校 ○　地域にとってなくてはならい存在の学校 ○　教職員一人一人が力を発揮できる学校	目指すべき姿の実現に向けた取組の概要	○「主体的、対話的で深い学び」の視点を生かした、教育実践（MIRAIプロジェクト） ○適切な実態把握を基にした、小・中・高・寄宿舎の連携による、一貫した系統的、組織的な指導実践及び点検評価 ○家庭、地域との連携及び障害者スポーツの推進 ○専門分野における校内の教職員を活用した「チーム日高」での地域支援体制を構築する ○カリキュラムマネジメントの視点で学校全体の構造や取組を評価するシステムを構築する
《取組の方向性》	①チーム学校の構築 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援 ③地域の連携・協働		児童生徒像	小学部：自分のことは自分で行い、みんなと一緒に活動する児童 中学部：個々のもてる力を高め、生活に必要な力を身に付けた生徒 高等部：自らの力を発揮することによって自己実現を図り、社会的自立につながる力を身に付けた生徒 寄宿舎：仲間と共に生きる喜びを共有し生活自立や社会自立ができる力を身に付けた児童生徒		

《重点取組項目》

（評価　A:目標を十分に達成　B:ほぼ目標を達成　C:やや不十分　D:改善を要する）

項目	目標 【P】	評価指標	具体的な取組内容 【D】	中間評価 【C】		年度末評価 【C】		学校関係者評価		見直しのポイント 【A】
（専門性の向上）	個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づく、一人一人に応じた創意工夫ある指導内容及び指導方法による日々の実践の充実を図る。	・個別の指導計画、個別の教育支援計画が適切に記載されている。 ・授業評価票における児童生徒の満足度が80%以上。 ・該当校種の免許状保有率80%以上 ・5領域全ての免許状保有率40%以上	・それぞれの授業実践の振り返りを行い、評価改善を行う。 ・個に応じた教材教具の研究開発 ・認定講習の計画的な受講及び申請の推奨	C	【8月末】 ・個別の指導計画、個別の教育支援計画において、適切な記載が増えた。 ・評価できていない。 ・知的障害の免許の取得率：75% ・5領域免許の取得率：33%	C	・個別の指導計画、個別の教育支援計画において、適切な記載が増えた。 ・一部の教員が児童生徒評価を実施し、満足度は高かった。児童生徒評価をより積極的に行う必要がある。 ・知的障害の免許の取得率：77% ・5領域免許の取得率：36%	B	個別の指導計画に適切な記載が増えたことや、細かく丁寧に記載されていること、そして一部の教員の実施ではあったが、児童生徒評価の結果、満足度が高かったことが評価できるため、B評価でよいと思われる。	・個別の教育支援計画及び個別の指導計画をさらに充実させ、実態に即した授業づくりに結び付ける。 ・認定講習の計画的な受講による、免許取得率の向上。
	「主体的、対話的で深い学び」の視点を生かし、各クラス、教科、学習グループで年間1回以上の公開授業を実施する。	・各クラス、教科、学習グループで年間1回以上の公開授業が実施できている。	・全校で「主体的、対話的で深い学び」の視点の整理 ・各学部の研究部が中心となって計画的に公開授業を実施 ・授業を参観しやすい体制整備 ・ビデオ録画を活用した授業研究に各学部で取り組む	B	【8月末】 ・校内研で「主体的・対話的で深い学び」の視点を整理したが、職員間で温度差がまだ残っている（全体像の捉えはある程度できたが、個々の取組に十分に落とし込めていない）。 ・公開授業は計画的に実施できている。 ・参観者は少ない。参観しやすい体制整備は不十分。 ・ビデオ撮影をし、研究協議の際に活用することができている。	B	・「主体的・対話的で深い学び」の視点で公開授業及び事後協議を各学年年間2回ずつ行った。理解度が少し高まった状態で授業づくりが行われている。 ・参観者は増えたが、短時間しか参観できないことで、十分に協議に反映できなかった。	B	研究授業後の研究協議で授業のビデオを視聴することで、実際に参観できていない教員も授業を振り返りながら協議が行えている。 授業評価表を活用して、参観者に授業評価をもらえている。	・公開授業、研究協議の実施による、授業改善を充実させる。
	外部専門家と連携した専門的知識技能の向上を図る。	・教育活動及び寄宿舎生活において外部専門家を15回以上活用することができている。	・自立活動充実事業、合理的配慮協力員派遣事業の活用（OT，PT，ORT，ST） ・他障害種の特別支援学校教員の活用	B	【8月末】 ・外部専門家の活用件数4回5件 ・申し込みが間際になることが多かった。 ・他障害種の特別支援学校教員の活用はなかったが、ST,OT,PTの活用にシフトすることにした。	B	・外部専門家の活用件数20回23件 ・得られた専門的知識を、個別の指導計画に反映させるとともに、校内で共有し活用する必要がある。	B	外部専門家を活用する回数が、目標としていた回数を上回って活用することができている。	・外部専門家の助言を、個別の指導計画（特に自立活動のシート）に明確に記載し、活用するとともに、学年、学部で共有し、移行する。
	校内研修を広く地域の学校や他の特別支援学校に公開し、情報共有及び相互の専門性向上を図る。	・校内研修を地域の学校や他の特別支援学校に公開し、参加者が増加している。	・校内研修の計画的な実施 ・内容に応じて、各特別支援学校や地域の小中高等学校等に研修案内配付	C	・校内研修会に4名、教育課程研究集会に3名の参加があった。	B	・校内研修会に9名、教育課程研究集会に3名の参加があった。	B	目標自体が高いレベルである。その中で、参観者は増えてきており、実績が認められる。	・引き続き、校内研修を広く地域の学校や他の特別支援学校に公開する。
	適切な実態把握を基にした、小・中・高・寄宿舎の連携による、一貫した系統的、組織的な指導実践及び点検評価を実施する。	・キャリア発達段階表を活用した授業実践が行われている。 ・卒業生が希望の進路先を実現できている。	・将来の自立と社会参加に向けた視点を常に意識するため、キャリア発達段階表を活用 ・キャリア教育充実事業を活用した校内研修の実施 ・県統一版アセスメントシートの活用	C	【8月末】 ・各学部でキャリア発達段階表の活用はできているが、「主体的・対話的で深い学び」との関連性の浸透が不十分である。 ・高3生のうち1名が進路先を変更。 ・高1生徒を対象に県統一版	B	・公開授業の研究協議の際に、キャリア教育の重要性について再確認することができた。 ・1名（調整中）を除き希望の進路先に進むことができた。	B	学校の評価と同じ。	・引き続きキャリア発達段階表を活用する。特に、中・高等部は県統一版アセスメントシートも併せて活用する。

（キャリア教育の充実）					アセスメントシートを活用した実態把握を行った。					
	地域の資源を活用した社会体験学習や交流活動を積極的に実施し、社会でよりよく生きる力を育成する。	・各学部に応じた形で、地域における社会体験学習や交流活動が実施できている。	・デイサービスセンター日高での交流活動及び奉仕活動。 ・村の駅日高におけるエコバッグの搬入 ・日高村役場の花壇整備 ・村道の草刈り　等	C	・一部については計画的に実施できている。	B	・デイサービスセンター日高での交流活動及び奉仕活動。 ・村の駅日高におけるエコバッグの搬入、販売体験（レジ打ち等） ・日高メシふぇすてぃばるへの参加（高3）	B	地域の空き缶拾いなどにも取り組んでもらっている。今後、地域の方も巻き込んで取組を進めていってもらいたい。	・積極的に、校外での活動を推進する。特に日高メシふぇすてぃばるは引き続き参加する方向で参加形態等を検討する。
	小学部段階から各地域の福祉サービスに関する情報を収集し、保護者と情報共有しながら進路に関する意識を高める。	・児童サービスへの対応ができている。 ・PTA進路研修会及びPTA視察研修に10名以上が参加している。	・児童福祉サービスの学習を進め対応力を強化 ・PTA進路研修会の内容の工夫 ・PTA総会や懇談時を利用しての啓発	C	【8月末】 ・4月当初に「進路の手引き」を各家庭、教職員に配付し、高等部教員対象には学習会を行った。 ・PTA行事に続けて進路学習会を行うことで、参加者が増え、13名の保護者の参加があった。	C	・「進路の手引き」は好評だった。 ・小中学部において、進路に関する学習会を実施することができなかった。 ・2学期のPTA進路学習会には11名の参加があった。	B	学習会への参加者も増え、進路の手引きも保護者、教職員に好評であったとのことであるのでB評価でよいと思われる。	・年度当初から計画的に、各学部会等を利用して進路に関する学習会を行っていく。 ・来年度もPTA進路学習会への参加者を増やす工夫をしていく。
	構築したアフターケア体制を関係機関との連携により推進し、本校独自スタイルとして定着させる。	・個々のアフターケア案件に応じて、対応することができている。	・新しい卒業生名簿の活用方法の検討 ・就労・生活支援センターとの連携 ・アフターケア案件の多様化・複雑化に対応するための学習会の実施	B	・個々の案件に関係機関と連携しながら対応している。	B	・専任教員を一名増員したことにより、個々の案件に関係機関と連携しながらスムーズな対応ができた。 （35件153回に対応） ・活用しやすい卒業生名簿を作成した。	A	卒業生への丁寧なケア体制が構築できていることは素晴らしいと思われるので、A評価でよいと思われる。	・卒業生名簿の情報を追加・整理し、より利用しやすいようにする。

（家庭、地域との連携及び障害者スポーツの推進）	各種運動、スポーツ大会に積極的に参加し、社会性や豊かな人間性を育み、共生社会の実現を目指す。	・各種運動、スポーツ大会に積極的に参加できている。	・各種運動、スポーツ大会への参加呼びかけを計画的に実施 ・参加しやすい体制作り及び、引率の在り方を検討	B	計画通りに、各種運動、スポーツ大会に積極的に参加できている。	B	計画通りに、各種運動、スポーツ大会に積極的に参加できている。 （8大会に参加）	A	一部の生徒の参加ではあるが、スポーツ大会での優勝等が、他の子どもたちの励みにもなっているのでA評価でよいと思われる。	・引き続き、各種スポーツ大会への参加を計画的に実施する。
	スポーツ指導員によるスポーツ体験教室を地域のクラブとも連携して実施する。	・学校で、スポーツ体験教室を複数回行うことができたか。	・「障害者スポーツセンター」「総合クラブとさ」及び「日高茂平クラブ」との連携 ・将来的に取り組むことができるスポーツの選定	B	【8月末】 ・昨年に引き続き、「総合クラブとさ」との連携により、スポーツ体験教室を開催することができた（3回）。2学期以降も計画的に実施する予定。 ・学校側からのアプローチ不足で、他団体との連携は取れていない。	B	・「総合クラブとさ」との連携により、年間10回スポーツ体験教室を開催することができた。 ・他団体との連携は取れていない。	B	学校の評価と同じ。 ＜次年度＞ひだか茂平クラブが、ボッチャ体験教室を計画する予定。	・引き続き総合型スポーツクラブとの連携を行い、指導員等を招へいする。また、スポーツクラブに出向いての体験を計画する。
	保護者や関係者への理解啓発を行い、休日における「総合型地域スポーツクラブ」の利用を促進する。	・休日における「総合型地域スポーツクラブ」の利用ができている。	・スポーツ体験教室の内容の充実 ・児童生徒・保護者への理解啓発	D	【8月末】 ・休日における「総合型地域スポーツクラブ」の利用は進んでいない。 ◇障害者のサッカークラブに参加できている生徒が3名いる。	D	・PTA役員会で保護者に周知したが、休日の利用は進んでいない。 ・より積極的に周知する必要がある。 ・本校で開催されたフライングディスク教室に卒業生が1名参加した（同窓会で周知）。	D	アンケートとして、〇〇教室の開催などの希望を取ってみてはどうか。	・PTA全体に対して「総合型地域スポーツクラブ」の周知徹底を行う。
	卒業生や地域社会との交流を組織的に実施する。	・同窓会に参加した卒業生と面談が実施できている。 行事に卒業生や地域の方々が参加している。	・同窓会の案内の徹底、内容の充実 ・面談内容を卒業生名簿へ反映 ・各行事での児童生徒会における案内状の作成・配付	B	・同窓会には卒業生109名が参加。 ・「なつまつり」には地域の子どもたちが参加していた。	B	・同窓会には卒業生109名が参加。 ・「なつまつり」には地域の子どもたちが参加していた。	B	学校の評価と同じ。	・引き続き卒業生や地域社会との交流を組織的に実施する。
	防災教育の充実と家庭、地域と連携した防災訓練を実施する。	・地域と連携した防災訓練が実施できている。	・広域6市町村との連携 ・近隣の住民との避難所開設訓練を計画 ・鍛冶屋地区自治会長との連絡調整	C	・広域6市町村と、合同研修を行った。 ・近隣の住民との連携が模索中。	C	・広域6市町村と、合同研修「HUG」を行った。 ・近隣の住民との連携を模索中。	C	学校の評価と同じ。	・広域6市町村と、避難所開設合同訓練を行う。
（特別支援教育のセンター的機能の充実）	就学前幼児や地域の小・中及び高等学校の教育相談、校内研修等への支援を充実させる。	・支援による満足度を高めることができている。 ・ケースに応じて外部専門家を活用した支援ができている。	・市町村教育委員会、小・中学校、各関係機関等と連携したニーズの把握	B	・ニーズに基づいた支援ができている。 ・外部専門家の活用はできていない。	B	・ニーズに基づいた支援ができている。 特別支援学級等サポート事業は49件対応（小　件、中　件） ・日高村の3保育園への支援を実施することができた。	B	学校の評価と同じ。	・就学前幼児や地域の小・中及び高等学校の教育相談、校内研修等への支援を充実させる。
	専門性の向上による多様化への対応と校内の人材育成による支援体制の強化を図る。	・複数の心理検査を適切に実施できる職員が増えている。 ・ケースに応じて心理検査を使い分けることができている。	・「WISC－Ⅳ」もしくは「DN－CAS」の実技講習会への教育相談部員の参加 ・校内での研修会を実施	B	・「WISC－Ⅳ」の実技講習会に参加。 ・「DN－CAS」の校内研修会を計画中。	B	・「DN－CAS」の教育相談部内で研修会を冬休みに実施したが、活用には至っていない。	B	学校の評価と同じ。	・必要に応じて複数の心理検査を使い分けられるように。引き続き専門性を高めていく。
	専門分野における校内の教職員を活用した「チーム日高」での地域支援体制を構築する。	・教育相談部以外の職員を、支援内容に応じて活用できている。	・相談内容に応じた職員の活用について関係部署との調整	C	・教育相談部員以外の職員の活用は進んでいない。	C	・教育相談部員以外の職員の活用は、日程調整が難しく、できなかった。	C	学校の評価と同じ。	・ニーズに応じて、チーム日高で取り組めるように調整する。
	本校独自の教育コンテンツを積極的に提供発信する。	・実践集録及び実践内容を整理し、ホームページ等で公開することができている。	・各学部、寄宿舎での研究の充実 ・教育実践で使用している教材教具やICT機器の活用方法等を整理 ・ホームページ等での情報発信	C	・実践集録の公開が遅れている。 ・教育実践で使用している教材教具やICT機器の活用方法等を整理・公開することは進んでいない。	C	・教育実践で使用している教材教具やICT機器の活用方法等を整理・公開することは進んでいない。	C	学校の評価と同じ。	・ホームページ上で教育コンテンツの情報発信を図る。
（「チーム日高」とし	カリキュラムマネジメントの視点で学校全体の構造や取組を評価するシステムを構築する。	・年度末までに授業時数及び教育内容の点検を行い、適切に変更できている。	・各学部、寄宿舎で取組内容等の点検評価 ・評価に基づく改善	C	各学期、行事ごとに点検評価を行っているが、学校全体での取組評価になっていない。	C	・教育課程の点検を各学部で行った。	C	学校の評価と同じ。	・研究とリンクさせて教育課程の検討を行う。
	創造性を発揮した業務の見直しにより組織力を強化する。	・年度末に向けて、各分掌部・委員会での業務内容の見直しを行うことができている。	・各分掌部・委員会における、見直しの視点での業務内容の点検	C	・各分掌部のおいて業務の洗い出しを行っている。今後見直しに繋げる予定。	B	・各分掌部の業務の洗い出しを行い、見直しをした。分掌部の仕事の一部を専門委員会に移管した。	B	学校の評価と同じ。	・分掌業務（分掌内での業務の分散も含む）の平準化に取り組む。
	組織コンプライアンスの遵守を徹底する。	・組織人として法令を遵守した仕事ができている。	・職員会及び面談での徹底	B	・校内研修を行った。	B	・他校での不祥事を全体で共有し、教職員の倫理観の向上に努めた。	B	学校の評価と同じ。	・引き続き組織コンプライアンスの順守を徹底していく。

ての学校力強化）	働き方改革の意義を理解し、教職員相互の思いやりと信頼による業務遂行を行う。	・業務内容の平準化を図り、時間外業務を削減できている。 ・長時間勤務者が0人。	・運営委員会等で働き方改革に向けての協議 ・職員会議等での理解啓発	C	・現在のところ長時間勤務者はいないが、時間外勤務時間に職員間の差がある。	B	・現在のところ月80時間を超える長時間勤務者はいない。	B	学校の評価と同じ。	・学校行事等の企画・実施にあたり、複数の部署が連携して取り組む。 ・夏期一斉休業日を検討する。
	いじめの早期発見及びいじめ発生時の迅速で的確な対応のために、学校全体での組織的な取組を強化する。	・いじめをなくす取組を行うとともに、いじめ発生時に適切な対応ができている。	・各学部、学級、寄宿舎における、いじめを題材とした学習活動の設定 ・教職員の研修を複数回実施	B	・夏休みに研修を行った。 ・いじめ発生時の対処は適切にできている。	B	・夏休みに人権教育課による研修を行った。 ・いじめ事例は1件あったが、発生時の対処は適切にできた。	B	学校の評価と同じ。	・学校生活アンケートを適切に実施、評価することによって、いじめの早期発見、早期対応につなげる。